

平成29年10月31日

福生市議会議長 杉山行男 様

総務文教委員会委員長 乙 津 豊 彦

平成29年度 福生市議会総務文教委員会視察報告書

本委員会は、平成29年度行政視察を次のとおり実施しましたので、報告いたします。

1 視察日程

平成29年10月11日(水)～12日(木)

2 視察先及び目的

- (1) 愛知県北名古屋市
コミュニティ・スクールについて

- (2) 愛知県小牧市
ICT教育について

3 視察参加者

委員長：乙津 豊彦
副委員長：三原 智子
委員：佐藤 弘治
委員：町田 成司
委員：清水 義朋
委員：池田 公三
委員：原田 剛
随 行：青島 祐太郎（議会事務局庶務係）

愛知県北名古屋市 視察 【10月11日(水)】

1. 市の概要(平成29年4月1日現在)

- (1)面積 18.37平方キロメートル
- (2)人口 85,176人
- (3)世帯数 35,738世帯
- (4)概要

愛知県の北西部にあり、南は名古屋市、東は豊山町、西は清須市、北は小牧市、岩倉市及び一宮市に接しており、ほぼ全域が名古屋市の都心部から10km圏内に位置している。

平成18年3月20日に師勝町、西春町が合併、北名古屋市として新しいスタートを切った。中央部を南北に名鉄犬山線が運行しており、名古屋方面、犬山方面と結ばれていることに加え、名古屋市営地下鉄(鶴舞線)と相互乗り入れしているため、名古屋都心へのアクセスが極めて容易になっている。

名古屋市のベッドタウンとしての性格と旧来からの都市近郊農業地としての性格を併せ持ちながら発展を続けてきた。現在も人口は増加している。



右から、副委員長、教育長、教育部長他



市役所玄関前にて

2. 視察概要

(1) 視察地選定の理由

それほど大きくない市で早くから(平成24年)学校運営協議会設置に向け、文科省の研究を行っており、本年(平成29年)4月より市内の全小中学校に学校運営協議会が設置されコミュニティ・スクールに移行したことから、協議会設置の経緯、設置後の状況、また課題等を調査すべく視察を決定した。

当市においても昨年度(平成26年4月)から小学校1校が、今年度(平成27年4月)からさらに小学校1校が指定されたことから、推進にあたっての調査を行う。

(2) 調査事項

- ① 事業を行うに至った経緯について
- ② 学校運営協議会設置に向けた推進委員会の内容や進行について
- ③ 事業の概要及び予算について
- ④ 事業の具体的内容及び状況について
- ⑤ 事業を実施されて、現在までに気づかれた効果及び課題等について
- ⑥ 今後の取り組みについて
- ⑦ その他

(3) 調査概要

まず、地元ケーブルテレビが作成したビデオが上映された。五条小学校ではサポーターが150名登録されており、読み聞かせ、図書館サポートなどが紹介された。

教育長も同席され課長の補足答弁やご自身の想うところ説明いただき、より詳しく理解できた。

多くの資料が提示された。以下に一覧を示すが実物は議会事務局に揃えてある。

- ・地域コーディネーターの使命・役割についてー北名古屋市地域学校協働本部でのコミュニティ・スクールとの一体的取り組みを通してー（パワーポイント）
- ・地域に広がるコミュニティ・スクール（「広報北名古屋」平成29年4月）
- ・市民協働による学び支援推進事業と北名古屋市のコミュニティ・スクール（当委員会の調査事項を中心にまとめられた資料）
- ・○北名古屋市学校運営協議会規則
- ・○北名古屋市地域学校協働本部要綱
- ・平成28年度北名古屋市のコミュニティ・スクルー市民協働による学び支援推進事業ー（豊かな学び創造推進協議会議事録、学校運営協議会活動報告（小学校4校、中学校2校、学校支援地域本部事業活動報告、資料からなる全65ページの冊子）
- ・コミュニティ・スクール2017～地域とともにある学校づくりを目指して～（文部科学省発行の冊子）

以下に調査事項ごとに調査内容の概要をまとめた。

① 事業を行うに至った経緯について

市民協働のまちづくりの推進として、平成24年に「市民協働による学び支援推進事業」として、学校と家庭・地域の協働による学校の新しい仕組みづくりを推進。事業の中核として、学校運営協議会制度（コミュニティスクール）及び学校支援地域本部事業を同時に導入し、3小学校で文科省の指定を受け研究を開始した。仕組みとしての学校運営協議会と仕掛けである学校支援地域本部を一体化し、市教委が学校とパートナーとしての地域をサポートしながら進めているのが「北名古屋市版コミュニティ・スクール」であるという。

平成27年4月に全小学校が学校運営協議会設置校になった。平成28年5月に

は、学校支援地域本部を基盤に「統合化・ネットワーク化」の面で、取組の体制整備が進んできたことから、「北名古屋市学校支援地域本部」を「北名古屋市地域学校協働本部」へと発展させ、平成29年4月に、全小中学校が学校運営協議会設置校となった。

国の学校・家庭・地域の連携協力推進事業の中から、市教委として「土曜、教室」や「地域未来塾」による学習支援にも取り組んでいる。平成28年度に4小学校に開設された放課後子供教室は、平成29年には他の6校にも広がり、放課後児童クラブとの一体化運用が図られ、全小学校で多様な学習プログラムや体験活動が進められている。

② 学校運営協議会設置に向けた推進委員会の内容や進行について

平成24年4月に、数年後には市内全小中学校へ学校運営協議会を設置することを目指して、まず師勝南小、五条小、師勝東小に学校運営協議会推進委員会を置き、「コミュニティ・スクールの導入促進に関する調査研究事業」に2年間計画で取り組み始めた。

研究開始当初より、学校運営協議会と学校支援地域本部とを一体的に推進し、各学校運営協議会推進委員会では、学校運営に加えて学校運営への必要な支援についても協議が行われ、学校サポーターの代表者や地域資源情報を多く有する方が地域コーディネーターとなり、委員として参画している。

③ 事業の概要及び予算について

事業の概要については「広報北名古屋」平成29年4月号に紹介されている。

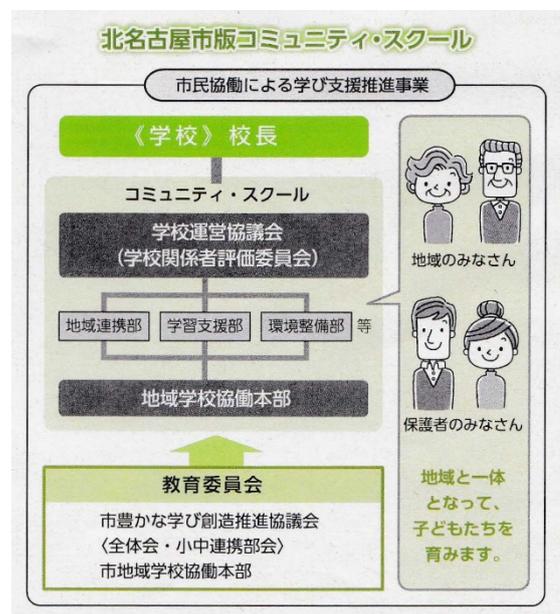
北名古屋版コミュニティ・スクールについてまとめた図を広報から転載する。

既存の学校関係者評価委員会を学校運営協議会に取込みその下に地域連携部、学習支援部、環境整備部を置き、各種の活動を行っている。

平成29年度の予算は、学校教育課が総額1,999,300円、生涯学習課が総額567,416円となっている。

主な内訳は学校教育課が、委託料：1,600,000円、講師謝礼：50,000円、委員謝礼：196,000円、会議費：19,300円など。

生涯学習課が、講師謝礼：20,000円、学校コーディネーター謝礼：500,000円、保険料：10,000円などである。



④ 事業の具体的内容及び状況について

別紙資料「平成28年度 北名古屋市コミュニティ・スクルー市民による学び支援推進事業」に詳しくまとめられているが、その活動例について広報北名古屋

市の記事から紹介する。

・学習支援(実習補助) 五条小学校

ミシン学習では、初めてミシンを扱う子どもが多く、糸かけ、直線縫いなどを一人ひとりができるようにサポート。

・環境整備(施設改修) 鴨田小学校

地域の方、保護者、中学生が協力してウォーターランド改修を行った。

・小中連携(異校種交流) 師勝西小学校・熊野中学校

あいさつ運動で、中学生が卒業した小学校を訪問し、久しぶりに会う先輩たちに、小学生も元気に挨拶をしていた。

・地域連携(意見交流) 師勝北小学校

「子どもたちの成長のために私たちができること」というテーマで、地域・学校・家庭の立場で班別で話し合いを行った。

・研修(図書室整備)

図書館ボランティアの方々が地域学校活動の先進地である津島市立神守中学校を訪問し、図書館の整備の様子を視察した。

⑤ 事業を実施されて、現在までに気づかれた効果及び課題等について

このテーマについてはとても具体的に報告を受けたので、コピーさせていただきます。

a) 効果

それぞれの立場や組織で、何をすべきか、何ができるかを考え、委員やボランティア一人ひとりが当事者意識をもって活動できるようになった。

学校運営協議会を設置して数年を経て、委員やボランティア同士が顔なじみになり、本音で話し合えるようになり、どんな子どもに育てたいかを熟議することで目標やビジョンを共有できるようになった。

学校公開、CS便りやホームページの発信などの情報提供に努めることにより、学校での活動に対する理解が深まった。

学校支援ボランティアの活動を見たり、一緒に活動することにより、児童生徒は、体験の量と質を高めることができた。

b) 課題

新たな人材の発掘と研修の質の向上。

初期段階から第二ステージに進んできている段階での活動の持続発展や内容の充実。

「学校がよくなれば地域がよくなり、地域がよくなれば学校もさらのよくなる」というプラスのスパイラルを創造していくこと。

熟議の充実を図り、子どもは地域で育てるという意識、地域で育てることは地域づくりの担い手を育てることにつながるという意識を高めること。

イコールパートナーシップにより子どもたちの学びや育ちを支援する体制を構築し、「地域とともにある学校」の充実につなげること。

⑥ 今後の取り組みについて

今後の方向性として以下の3点を挙げられた。

- ・ 小学校から中学校への円滑な接続をめざし、小中学校間の、段差軽減に向けた9年間の学びを支える運営体制づくりの促進と体験活動を軸にした地域参画型キャリア教育の充実
- ・ 学校と家庭・地域の明確な役割分担によるアクションプランに基づく活動の促進
- ・ 社会総がかりでの教育の実現に向けた理解促進

3. 視察成果のまとめ・所感

当方の調査事項に加え、その他として、コミュニティ・スクールを実施することによる地域と学校の変容について説明があった。これらの変容はコミュニティ・スクール移行に伴う成果ともとれ、当市における今後の目標とも捉えられる。その全文をコピーさせていただく。

- ・ 以前に比べ、保護者や地域から学校への信頼感の高まりを感じる。
- ・ 様々な支援活動により、児童生徒の自尊感情や社会性が高まり、落ち着いた学校となった。
- ・ 学校での活動に対する理解が深まったことにより、苦情が減った(苦情が柔らかくなった)。
- ・ 地域と連携した行事の内容が充実し、児童生徒の地域への愛着心が高まるとともに地域の活性化が進んだ。
- ・ 標準学力調査(CRT)結果の経年比較から、学力が着実に向上していることを捉えている。
- ・ 保護者意識調査の結果から「学習ボランティア等の支援により、学力の定着や向上に効果が出ている」「コミュニティ・スクールの制度を取り入れて、学校・家庭・地域が協働して子どもたちの教育を良くしていくことについての効果が教育活動に出てきている」ことが読み取れる。また、全ての設問にプラス方向の結果が見られ、年々向上している。

次に、質疑の内容から所感を述べる。

北名古屋市は比較的早くコミュニティ・スクールの研究を始めた。平成24年から3校で取り組みその研究成果を発表しながら平成29年度には市内全小中学校16校に学校運営協議会を設置、即ちコミュニティ・スクールに移行した。

研究段階では当市も同じ経過をたどったが、地域から学校運営に興味がありリーダーとして引っ張っていく人を中心に置いた。現在第二ステージに入っているというが、課題にもあがっていたが人材の確保に不安を感じた。

北名古屋市では学校教育課の教育指導員と生涯学習課に統括コーディネーターを置き、コミュニティ・スクールの推進に当たっている。当初彼らがコーディネーターやボランティアを探して事業を進めたと聞いた。ちなみに、前述の予算には彼らの経費は加算されていない。

しかし、研究段階からわずか5年で成果が上がっていることは評価したい。

愛知県小牧市 視察【10月12日(金)】

1. 市の概要(平成29年4月1日現在)

- (1)面積 62.81平方キロメートル
- (2)人口 153,335人
- (3)世帯数 65,849世帯
- (4)概要

小牧市(こまきし)は、愛知県の北西部に位置する市。名古屋市の北側に位置し、複数の高速道路が交わることから、陸上交通の要衝となっている。

市の中部には小牧・長久手の戦いの舞台ともなった小牧山が、南部には県営名古屋空港の一部や航空自衛隊小牧基地が、東部には桃花台ニュータウンがある。

昭和34年(1959年)、当地方に未曾有の被害をもたらした伊勢湾台風による復興を契機に、農業依存からの転換と財政基盤の確立のため、積極的な工場誘致と大型団地の誘致を図ってきた。高度経済成長期に入ると、中部の空の玄関名古屋空港、さらには名神高速道路・東名高速道路・中央自動車道の3大ハイウェイの結節点という立地条件にも恵まれ「小牧菜どころ米どころ」といわれたかつての田園都市から、陸上交通要衝都市の性格を有する内陸工業都市へと大きく変貌し、中部の中核都市へと発展した。

外国籍住民も多く、153,335人中外国籍の住民は8,412人である。

一方、新図書館建設事業が計画されたが、9月定例会で「現在の新図書館建設計画に関する住民投票条例」が可決され、10月4日に住民投票が行われ反対が賛成を上回る結果となり新図書館の建設計画については、完全に白紙の状態になったとの説明もあった。



小牧市役所 議場にて



小牧小学校玄関前にて

2. 視察概要

(1) 視察地選定の理由

日本教育情報化振興会が行った「校務情報化の現状と今後の在り方に関する研究(平成18年度文部科学省委託事業)」の報告書を紹介され、その中の先進的実践

事例調査の一覧に愛知県小牧市立光が丘中学校の事例が載っていた。北名古屋市と地理的にも近いことから視察の候補として挙げた。

その後調べてみると、小牧市教育委員会から当市教育委員会に対し「ICT教育」について視察の申し込みがあったとのこと。視察に来る市に議会から視察に行くのもいいのではないか、ということになり小牧市に申し込んだ。

事前調査が進むにつれ、小牧市はICT教育に古くから取り組んでおり、特に校務のICT化について上述の研究も行われていることが分かった。当市で行っているICT教育はタブレットを用いた学習について先進的な取り組みが行われているが、校務のICT化についてはこれからと言わざるを得ない。

そこで、校務のICT化、児童に対するICT教育を学ぶため視察することにした。

(2) 調査事項

ICT教育事業について

- ① ICT教育(学校ICT)事業に対する考え方について
- ② ICT教育(学校ICT)事業の現状について
 - a) 事業を推進するに当たっての組織、協力団体(産官学)について
 - b) 校務のICT活用事業の概要及び予算について
グループウェア、いいところ見つけ等について
 - c) ICTを利用した学校教育の現状について
デジタル教科書、教材データベース等について
- ③ ICT教育(学校ICT)の今後の取り組みについて
 - a) 小牧市教育振興基本計画におけるICT教育の目標について
 - b) ICT活用教育アドバイザーの活用について
 - c) ICTを利用した学校教育の新たな取り組みについて

(3) 調査概要

まず、委員会室で教育委員会から調査事項について説明を受けた。議長から歓迎のご挨拶をいただき、担当課長からパワーポイント資料をもとに説明を受けた。

学校ICTについては小牧小学校に場所を移し、校長先生から詳しく説明を受け、コンピュータールーム、ICT機器を利用した授業の風景を視察させていただいた。



研修の様様

多くの資料が提示された。以下に一覧を示すが実物は議会事務局に揃えてある。

- ・地域と学校を結ぶ 教育ネットワークシステム (パワーポイント)
- ・全小中学校25校(H30.3月現在) (ICT機器をまとめた図)

- ・ 小学校コンピューター教室 説明会資料
- ・ 平成25年9月 中学校ICT環境が変わります
- ・ 小牧市教育大綱 小牧市教育振興基本計画

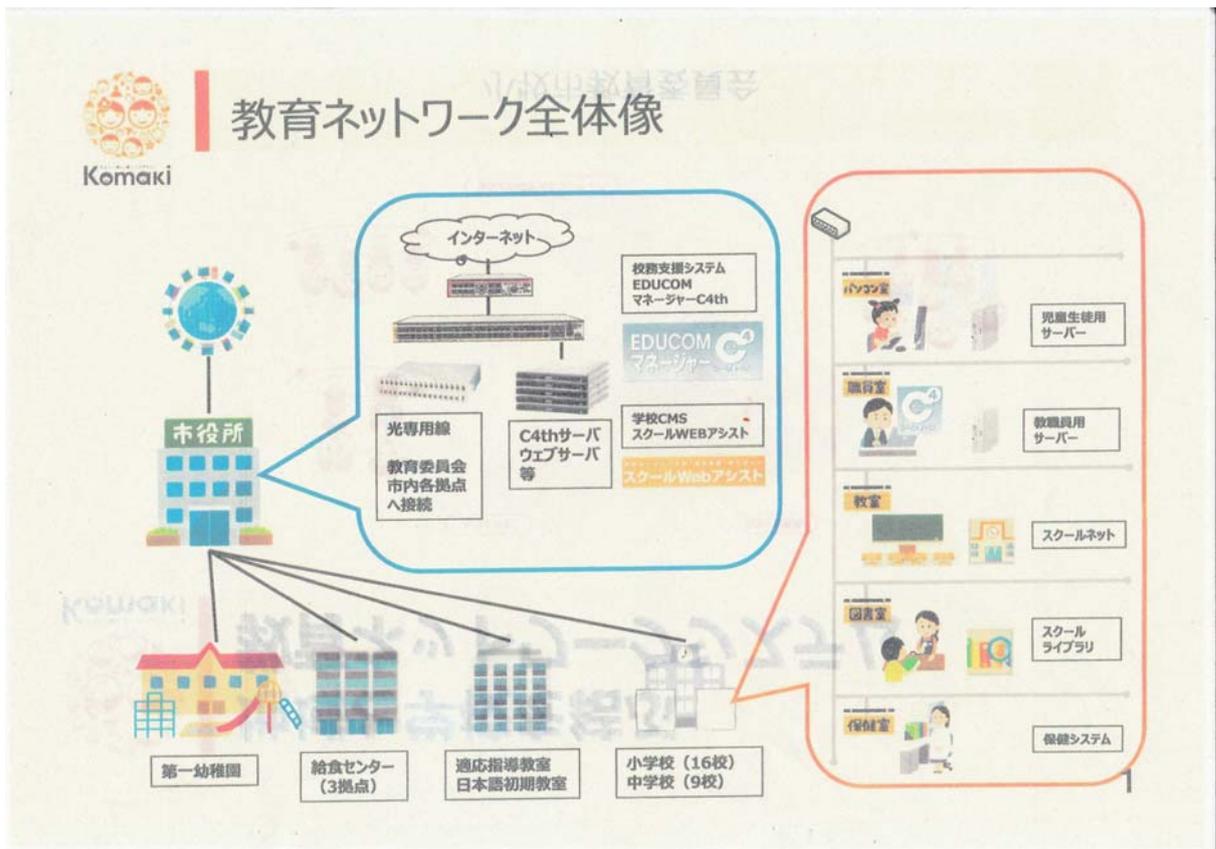
先方の用意したパワーポイントによる説明及び小学校での視察となったため、報告は調査事項と一致していないところもある。

① ICT教育(学校ICT)事業に対する考え方について

このテーマに限定した説明はなかったが、導入の歩みを見るとどのように考えてきたかが理解できる。パワーポイントの画面から追ってみるので、現状についての説明も含まれる。(☛は報告者コメント)

- ・ 平成10年 校務の情報化システムの開発開始。
- ・ 平成11年 EDUCOMマネージャー、保健システム運用開始。
☛(株)EDUCOMの製品で現在、EDUCOMマネージャーC4th(シーフォース)へとバージョンアップしている。本社は愛知県春日井市にあることから、カスタマイズを行っている。
- ・ 平成13年 小牧中学校にて、日常的に校務情報システムが活用される。
☛教育課程新聞【2014年1月1日】に「第14回教育委員会対象セミナー東京」の記事として、小牧市立小牧中学校校長・元愛知県教育委員会海部教育事務所・所長・玉置崇氏の記事が掲載されている。
- ・ 平成14年 スクールネット・スクールライブラリ運用開始。
☛スクールネットは校内ネットワークに掲示板を開設でき、コミュニケーションの場を提供するもの。スクールライブラリは図書館情報を校内ネットワークを利用するもので、普通教室や特別教室からも読書活動へと広がる。
- ・ 平成16年 光が丘中学校で学校ホームページ運用開始。
☛EDUCOMマネージャーのスクールWEBアシストを利用、現在でも学校ホームページは毎日更新されている。
- ・ 平成21年 EDUCOMマネージャーからEDUCOMマネージャーC4thへバージョンアップ実施。グループウェア機能を追加し文書連絡・個人連絡・食育管理システムの運用開始。
- ・ 平成22年 Web小牧教育センター運用開始。
☛情報が豊富。
- ・ 平成24年 C4th 備品管理システム運用開始。
徴収金システム C4th 食数管理システムの運用開始。
- ・ 平成27年 センター・各学校に設置していたC4thサーバーをセンターサーバーに集約。
☛画期的なシステムで、学校間で情報が共有もできる。また、インターネットへの出口を1か所としたためセキュリティー対策も万全。

以下にパワーポイントで示された「教育ネットワーク全体像」を示す。



② ICT教育(学校ICT)事業の現状について

a) 事業を推進するに当たっての組織、協力団体(産官学)について

特にないとのことであったが、EDUCOMマネージャーにカスタマイズを行ったということなので、(株)EDUCOMのサポートがあったのではないかと想像する。

b) 校務のICT活用事業の概要及び予算について

・グループウェア、いいところ見つけ等について

グループウェアについては、C4thの機能に含まれており、連絡掲示板(校内や学校間の情報を有効に共有できる)、個人連絡(地域の教職員間でメッセージを送ることができる)、文書連絡(教育委員会と学校の文書管理を支援する)、備品管理(各学校の備品を管理し、地域で共有できる)などの機能が運用されている。

いいところ見つけとは全教職員に配備された端末から児童生徒ごとにメモが書き込める機能で、普段いいことしているなど気づいたことをその都度書き込むとのことである。担任だけでなく教科担任の先生や養護教諭なども書き込むとのこと。この機能はC4thに実装されており、他にも利用している教育委員会もみられる。学期末にはこの情報をもとに通知表の一部として保護者に報告され、信頼を得ている。

c) ICTを利用した学校教育の現状について

- ・デジタル教科書、教材データベース等について
この件については後述(小牧小学校視察)する。
- ・予算について
平成29年度予算で、296百万円(教育費の3.8%)とのことであった。

③ ICT教育(学校ICT)の今後の取り組みについて

- a) 小牧市教育振興基本計画におけるICT教育の目標について
基本目標3 未来につなげる、安全で充実した教育環境づくり の中の
基本計画14. 将来を見据えた学校施設づくり としてICT教育の推進を掲げ
ている
- b) ICT活用教育アドバイザーの活用について
文科省のアドバイザ派遣事業に指定され、課題の指摘、解決に向けてアドバイザから助言を受ける。
- c) ICTを利用した学校教育の新たな取り組みについて
児童生徒にタブレットを貸与し、家庭学習を含め利用する計画がある。福生市や他の自治体の例をもとに試算したが費用面で具体化に至っていない。
※福生市では小学校3学年の児童に貸与しているが、タブレット総数:450台、平成29年度費用(9月～3月):12,834千円(年間22,000千円)。小牧市の小学校在籍者数:約8,700人、中学校在籍者数:約4,300人。単純に計算すると、年間小学生のみで425,000千円、中学生を含めると635,555千円掛かる。

質疑応答の後、議場を視察させていただいた。立派の一言、傍聴席も階段状になっており、椅子も立派である。

庁用バスで小牧小学校に案内され、校長室でレクチャを受ける。

① いいところ見つけ

ここで校長席に置かれたパソコンを使い「いいところ見つけ」を実演していただいた。もちろんデモ用の画面だが名簿は実物である。アプリケーションとしては一人ひとりの写真が登録できるが、ここでは写真までは利用していないとのことであった。我々が思うより先生方は子どもたちの顔と名前が一致しているのかもしれない。



個々のデータは共通サーバに置かれるので、途中で他の学校に転校しても個人データは引き継がれるとのことである。中学校に進級してもやろうと思えば引き継ぎが可能とのことだが、現状はそこまではやっていない。

② コンピュータルーム

校長先生に案内され、2階のコンピュータルームに案内された。まず廊下の広さ

に驚いた。学年集会ができるという。

ノートパソコンがクラスの全児童分、約40台配備されており、プロジェクター、スクリーンが用意されどのパソコンの画面も選択して映し出せる。今年8月に全て新機種に交換されたとのこと。教諭卓には2台のモニターがあり、児童のパソコンの画面を見たり、コメント等を表示することができる。

今年度、ロゴキットの無線モデルカーが導入され、プログラムの授業が行われている。専用ソフトウェアで無線モデルカーに指示を出すプログラムを作成する。

中学校では有線だがきめ細かい支持ができるキットが導入されており、より高度なプログラム教育が行われている。

その他、様々なプログラムが用意されており、簡単な広報誌を作成することもできる。

③ 一般教室

急遽、6学年のクラスを見ることができた。児童のいない教室の全景で黒板の上に50インチのモニターが設置されているのがわかる。黒板の横に教諭用のパソコンが設置されており、ここでデータベースにアクセスしデジタル教科書や保存されている教材を表示する。先生方は教材を共有するとのことであった。デジタル教科書の実演していただいた。読み上げ、書き込み等ができる。黒板の位置が低いと感じたが、手動で上下する仕掛けになっている。

他のクラスでは、Wi-Fiを使った可搬型書画カメラを使った授業を見ることができた。児童の回答を書画カメラを使ってモニターに映し出し教諭がコメント等を行う。

校長先生に促され教室に入っって視察させていただいた。児童は視察慣れしているのだろうか。



3. 視察成果のまとめ・所感

校務のICT化は文科省も力を入れているところである。小牧市は平成10年から取り組んできたので先進市ということができのではないだろうか。また、教育長や市長(昭和50年生まれ)のリーダーシップもあったのではないかと考えている。と言っても現状のシステムを運用できるまで苦労されたのではないかと推察する。

システムに関しては(株)EDUCOMの助けも受けたのではないのだから。当市においても産官学で協働研究してきた経緯がある。平成29年にサーバーを一元化できたことは評価できると考える。つまり、学校を超えて情報の共有化も図れるわけで、セキュリティ面でも有利になる。当市においては学校ごとのネットワークなので、早い時期にサーバーの統合ができれば望ましい。また校内に無線LANが整備されており、Wi-Fiを使った様々な機器の利用が可能となっている。

「いいところ見つけ」は名前が興味を引くが、内容を聞くとそれ以上に情報共有に寄与していると思われる。説明では問題点もメモできるがあくまで児童生徒の「いいところ」を蓄積するのが目的という。保護者からの信頼も得られており、当市においても導入できればと感じた。全ての教諭が書き込むと聞いて、教育委員会で指導したのか聞いたが明快な答弁は得られなかった。今の先生はシステムの使い勝手がよければ情報を入力することも苦にならないのではないだろうか。

事前調査においても学校ホームページが毎日更新されているので質問したが、通常の業務でこなせるとのこと。帰りの電車の中で小牧小学校のホームページを見てみると、今回の視察が報告されているのを確認できた。ひょっとして校長先生が記事をかいたのかもしれない。当市における学校ホームページについて追及したこともあるが、毎日更新されるまでは至っていない。

小牧市立小牧小学校

サイトマップ

検索

トップページ | 学校紹介 | 学校日記 | 学校生活 | 行事予定 | 配布文書 | PTA | リンク | 尾P連

現在位置: トップページ > 学校日記

最新更新日: 2017/10/12

本頁: 115
昨日: 134
総数: 400336

学びの秋、スポーツの秋、芸術の秋。2学期も牧っ子の健やかな成長を支えていきたいと思ひます。ご支援とご協力をよろ

カテゴリ
TOP
1年生
2年生
3年生
4年生
5年生
6年生
6・7・8・9組
国際教室
校務室
児童会
学校行事

東京より視察

東京より福生市議会議員の方が、小牧小学校へいらっしゃいました。牧っこの生き生きとした姿、すばらしい学校環境を見ていただきました。特に、コンピュータ機器等を使った授業に関心をもたれ、たくさん質問を受けました。よろしければまたお越しください。

【学校行事】 2017-10-12 13:20 up! 1/4/401 (1)

富知南教育委員会
遠隔教育委員会推進サイト
モラルBOX

検索

検索対象期間
●年度内 ○すべて

<< 2017年10月 >>

日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	

当市に視察にこられた課長に聞くと、「御市ではきちんと計画書を作って実践されている」、との評価をいただいた。当市教育委員会の計画書は自ら作成しており(コンサルタント会社に作成委託はしていないと聞く)、まず自ら作成した計画ありきの進め方は評価できる。

小牧市は比較的財政的に恵まれた市である。にも拘わらずタブレットの導入までの財源の捻出に苦労されている。タブレットの悉皆貸与には毎年相当な額の財源を確保する必要があるわけで、当市においても基金を財源として実施している現状は将来的に少々不安が残る。

文科省が学校ICTを推進するのであれば、財源豊かな自治体はともかく多くの自治体では財源の確保に苦労することと思われる。自治体の財政に左右される施策はある意味格差を生むことにならないだろうか。国の責任で機器の整備をお願いしたいところである。

学校ICTについては多くの自治体で実績があるので、当市において今後実施に向けて調査を充実していただきたい。小牧市の教育システムでは82台のサーバーを擁しているが、庁内に設置され教育委員会が管理していると聞いた。今後クラウド化も検討していくことになるのではないかと考えている。C4thのようなシステムが標準化されればSaaS¹形態も可能ではないだろうか。

¹ SaaS【 Software as a Service 】サービスとしてのソフトウェア
ソフトウェアを通信ネットワークなどを通じて提供し、利用者が必要なものを必要なときに呼び出して使うような利用形態のこと。サービス型ソフトウェアとも呼ばれる。